群教セ	G15 － 01
	令７.289集
	高－ｷｬﾘｱ

令和７年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社ヤマダホールディングス

長期社会体験研修員　六本木　勇人

Ⅰ　研修内容

１　研修先の概要

株式会社ヤマダホールディングスは、企業の持続的成長を基本方針に、高度化・多様化する消費者ニーズに素早く対応することを基本としている。常に「お客様（市場）第一主義」の目線で経営理念である「創造と挑戦」「感謝と信頼」を実践し、企業価値を高め、キャッシュフローを重視したローコスト経営に取組、家電流通業界のリーディングカンパニーとしてＥＳＧ経営を積極的に推進し、社会に貢献できる「強い企業」を目指している。

２　研修先での主な研修内容

(1)　高校生の職場見学、採用事務業務研修【７月～３月】（研修場所：本社）

高校生は、７月１日から求人票が公開され、９月の就職試験開始までに学校を通して応募前職場見学を申込む。全国のヤマダデンキ採用担当者や見学実施店舗と見学の日程調整や、学校へ決定通知の電話連絡、案内文の送付の業務を行った。研修先の高校生採用担当者は２名と少ないため、７月～８月は電話対応に従事することが多かった。全国展開している会社だからこそ採用業務一つをとっても業務内容が多く感じた。

(2)　インターンシップ、進路ガイダンス研修【通年】（研修場所：本社）

研修先はインターンシップの受け入れを通年で受け付けている。学校から直接依頼が来る場合のほか、進路ガイダンスを主催する会社を通して依頼が来る場合もあり、全国のヤマダデンキ採用担当者や実施店舗と日程調整や連絡を行った。また、進路ガイダンス主催者側から案内される高校生対象の進路ガイダンスについては社内で参加の可否を検討し、その結果を連絡する業務にも携わった。業務を通して、高校生の採用を検討している多くの会社は費用対効果を考えながら、進路ガイダンスの参加を決定している実態を知ることができた。

(3)　進路ガイダンスの参加、高校訪問研修【通年】（研修場所：県内外高等学校）

高校生対象の進路ガイダンスに参加し、会社概要や会社が求める人材についての説明を行った。進路ガイダンスでは、説明が一方的にならないよう、高校生に質問しながら対話形式で説明を進めた。参加した高校生は、生き生きとした表情で説明を聞いていた。進路ガイダンスに同行した社員の方からは、「いつも一方的な説明になってしまうので、ぜひ参考にしたい」という感想をいただいた。高校訪問では、進路指導担当職員と情報交換を行い、各校の生徒の進路状況や実態を知ることができた。

３　キャリア教育実践

(1)　キャリア教育について

研修先の接客、採用、進路ガイダンス等の業務を通じて、相手の意図を汲み取りながら意思疎通を図る「対話力」の重要性を痛感した。この対話力は、キャリア教育の「人間関係形成・社会形成能力」の中核であり、他者理解と自己伝達を統合した能力である。多様な価値観との協働が求められる現代社会において、職業人としての基盤となる資質である。以上を踏まえて、将来、生徒が社会で多様な人々と協働するための基盤として不可欠であると考え、対話力の育成に焦点を当てた授業実践を計画した。

(2)　実践の概要（県立新田暁高等学校）

授業実践

科目名　ビジネス基礎

題材名　「コミュニケーションスキルを高め、未来を切り拓く対話力の育成」

対　象　第２学年情報ビジネス系列　34 名

ロールプレイングによるトークトレーニングを通じて「人間関係形成・社会形成能力」が向上することを目指した。

トークトレーニング①ではペアで、相手の立場や用途の想定にあえて時間を取らずコミュニケーションを行い、その振り返りを行った。トークトレーニング②では、相手の立場や用途の想定に時間を取ってコミュニケーションを行い、①と同様に振り返りを行った。その後に、トークトレーニング①と②を比較し感想をグループにて共有した。授業の最後にはコミュニケーションを図る上で今後の目標を設定しワークシートに記入した。

Ⅱ　研修成果

１　採用事務業務全般について

全国のヤマダデンキの高校生採用担当者と学校をつなぐ業務を通して、複雑な日程調整を進める業務を経験した。そこでは、単なる事務処理にとどまらず正確な情報伝達と細やかな配慮によって双方の不安を解消する「架け橋」としての役割が求められていることに気付いた。採用業務は、企業の信頼構築と組織の成長を支える重要な業務であり、コミュニケーションがその基盤となっていることを実感した。

２　高校訪問について

高校訪問を通して会社が知りたい事とは、求人票に対する反応だけでは見えない生徒の最新の就職に対する価値観や志向の変化を深く理解した。自社の求める人物像との相性や進路指導のプロセスを把握することで、入社後のミスマッチを防ぎながらより確実で安定的な採用ルートを築くための指針であると知ることができた。今後生徒に進路指導を行う際に、企業側からの視点を活かし指導していきたい。

３　キャリア教育実践について

今回の授業実践を通して、生徒がコミュニケーションを図る上で「相手を理解する」ことの重要性に気付く過程を目の当たりにし、日常の何気ないやり取りでも相手を意識することで、その質を向上できることを改めて感じた。この経験を生かし、今後も生徒がコミュニケーションの本質を考える機会を設け、社会生活に必要な対話力の育成に努めていきたい。

Ⅲ　まとめ

株式会社ヤマダホールディングスでの研修を通じ、企業の採用実務について深く理解することができた。学校現場とは異なる環境に身を置くことで、コミュニケーションの重要性を認識することができた。コミュニケーションの重要性について授業を通じて生徒に還元できたことは、本研修における大きな成果であると実感した。

来年度以降は、研修で得たつながりを活かした社会人講師による授業の実施や、教職員間での知見共有を図り、学校全体のキャリア教育の充実に繋げていきたい。

（担当指導主事　高橋　邦明）